

---

# 20歳、21歳女性における自身の身体に対する評価、主観的健康度、ダイエット経験の関連

羽 成 隆 司

## 要約

本研究は20歳と21歳女性の身体意識に着目し、自身の身体に対する評価、心身の主観的健康度、ダイエット経験の関連について分析することが主たる目的であった。分析対象は女子大学の学生149名であった。質問紙調査では、裸体時とよそいき時それぞれの身体各部位に対する自己評価（同年代女性100人中の順位）、GHQ28による主観的健康度、ダイエット経験を測定した。ほとんどの部位で裸体よりもよそいきの方が自己評価が高く、装った時の方が他者との比較において自身がより魅力的に捉えられていることや、胸は他の部位と異なる独特の位置づけがなされていることは、前報（羽成・宮崎，2019）で報告した18歳、19歳女性と共通した特徴であった。一方、20歳と21歳の女性では、自己評価と主観的健康度との関連が弱いこと、下半身全体への意識がダイエット行動に関連していることなど、18歳、19歳とは異なる特徴が明らかになった。

キーワード：20歳と21歳の女性、身体意識、裸体とよそいき、主観的健康度

---

## はじめに

前報（羽成・宮崎，2019）では、若年女性の身体意識を明らかにするためには、思春期以降の発達段階との関連をきめ細かく検討する必要があることを指摘し、対象を18歳と19歳女性に限定して身体意識の特徴を検討した。具体的には、裸体とよそいきそれぞれにおける自身の身体部位に対する魅力・美しさの自己評価（同年代女性100人中の順位）と、心身の主観的健康度、ダイエット経験、身長、体重、BMI、被服・化粧品購入額との関連について分析した。主たる結果は以下の通りであった。

1) 多くの部位で身長が高いほど、BMIが小さいほど身体の自己評価が高い。身体の自己評価には体重が独立して影響を与えるのではなく、身長

とBMIに反映される体型の影響が重要である。2) すべての身体部位で裸体よりもよそいきの方が自己評価が高く、裸体よりも被服や化粧によって装った時の方が、他者との比較において自身がより魅力的であると捉えられている。3) 胸のみは体重やBMIが大きい方が自己評価が高いことや因子分析の特徴から、胸は他の部位と異なる独特の位置づけがなされている。4) 裸体とよそいきいずれも、瘦身志向やスタイルにとくに関わる部位（尻や上半身・下半身のプロポーション）において主観的健康度と自己評価の関連が明瞭に現れ、主観的健康度が高い場合に自己評価が高い。5) 身体部位の中ではとくにウエストへの評価がダイエット行動に関連する。現在ダイエット中の者は過去の経験者や経験がない者より被服・化粧品購入額が大きく、装うことへの志向が強い。ダイエット経験と健康度には関連がない。

本研究では、20歳と21歳の女性を対象として

前報と同様の分析を行い、18歳、19歳との共通点と相違点を報告する。

---

## 方 法

---

### 調査対象

東海地方の女子大学に在籍する20歳、21歳の大学生に質問紙への回答を求めた。回答の拒否や回答に多くの欠損値があったものを除外し、最終的に149名を分析の対象にした。平均年齢は、20.3歳（標準偏差0.4）であった。

### 調査時期

調査期間は、2018年12月～2020年7月であった。

### 質問紙

質問項目は、前報と同じく以下の通りであった。自身の身体に対する評価については、「まったく何も身につけず、化粧もしていない裸体の状態の自分自身」と「よそいきの服と靴を身につけ、髪の毛もセットし、ネイルや化粧もしっかりしている状態の自分自身」のそれぞれを想定し、自身の身体の各部位について、その魅力や美しさは、同年代の女性100人中で何位くらいだと思うか、おおよその順位の記入を求めた。設定した身体部位は、毛髪、顔、肌、手、腕、肩幅、胸、ウエスト、足、脚、尻、全身のプロポーション、上半身のプロポーション、下半身のプロポーションの14項目であった。主観的健康度の測定には、日本版GHQ28 (Goldberg, 中川・大坊, 1978) を使用した。以上の他、やせるためのダイエット経験の有無（「現在している」「過去にしたことがある」「ない」のいずれかで回答）、年齢、身長、体重、被服と化粧品の購入それぞれに費やす1ヶ月あたりのおおよその金額について回答を求めた。

### 手続き

大学で著者が担当する、2年生以上が受講生の授業を利用して質問紙調査を集団実施した。調査対象の学年・年齢以外は前報と同様であった。回答に先立つ説明の中では、質問紙の概要と、参加者にはすべてについて率直に回答してほしいという依頼を行った。倫理的配慮として、回答が任意である旨を説明した。具体的には、自身の身体に関連する項目があること、回答すること自体が不快感を喚起する可能性があること、回答は任意であり、途中の中止も可能であること、回答の承諾・拒否・中断と当該授業の成績に関連はないことを強調した。これらは質問紙の第1ページにも記述されていた。参加者の匿名性を確保するために事前の署名は求めなかった。調査実施の翌週の授業時にデブリーフィングを行った。本研究計画は、前報の段階で椋山女学園大学文化情報学部の研究倫理委員会による許可を得ている。

---

## 結果と考察

---

### 身長・体重・BMI

本調査回答者の身長、体重、BMIの平均値は、それぞれ157.3cm（標準偏差5.1）、50.1kg（5.8）、20.3（2.1）であった。これらは、18歳と19歳を対象にした前報とほぼ同じである。また、各年齢のサンプル数が少ないため平均値としての信頼性は低いものの、厚生労働省（2017, 2018, 2019）による平成28～30年の国民健康・栄養調査による20歳と21歳の平均身長と平均体重は、154.9～159.5cm、49.9～53.5kgであり、本調査結果はこの範囲に含まれる数値である。本調査回答者のBMIの分布を表1に示した。「やせ」が18.5%、「普通」が80.1%であり、ほとんどの回答者が「やせ」または「普通」の範囲に含まれていた。「肥満度1」以上がほとんどいないことは前報と同様である。ただし、「やせ」が前報（23.1%）よりやや少ない。

表1 回答者のBMIの分布

BMI	分類	人数	比率 (%)
18.5未満	やせ	27	18.5
18.5～25	普通	117	80.1
25～30	肥満度1	2	1.4
30～35	肥満度2	0	0
35～40	肥満度3	0	0
40以上	肥満度4	0	0
体重無回答		(5)	

身長、体重、BMIと、各身体部位に対する自己評価（同年代女性100人中順位の自己評定値）、GHQ得点、被服・化粧品購入額についてPearsonの相関分析を行った。各身体部位については、いずれも相関係数は小さいもの（ $.163 \leq |r| \leq .467$ ）、いくつかの部位で有意な相関が認められた。裸体では、身長は、腕、足、脚、尻、全身のプロポーシオン、下半身のプロポーシオンと負の相関が有意であった。体重は、肩幅、ウエスト、足、脚、尻、全身のプロポーシオン、上半身のプロポーシオン、下半身のプロポーシオンと正の相関が有意であった。BMIは、手、腕、肩幅、ウエスト、足、脚、尻、全身のプロポーシオン、上半身のプロポーシオン、下半身のプロポーシオンと正の相関が、胸と負の相関が有意であった。よそいきでは、身長は、腕、脚、尻、下半身のプロポーシオンと負の相関が有意、体重は、腕、肩幅、ウエスト、足、脚、尻、全身のプロポーシオン、上半身のプロポーシオン、下半身のプロポーシオンと正の相関が有意であった。身長、体重、BMIのいずれもGHQ得点と有意な相関は見られなかった。体重のみ、化粧品の購入額と負の相関が有意であった。

以上のように、いくつかの部位で、身長が高いほど自己評価が高く、体重とBMIが大きいほど自己評価が低くなる傾向があった。この点は18

歳と19歳を対象とした前報と同様である。一方、前報で見られた身長とGHQ得点との有意な負相関が見られず、18歳と19歳で示唆された身長が高いほど主観的健康度が高いという傾向は、ここでは認められない。

## 各身体部位に対する自己評価

### (1) 裸体とよそいきの比較

裸体、よそいきの着装・化粧をした場合、それぞれにおける各身体部位に対する自己評価の値についてt検定を行った。足を除いた部位で有意差または有意傾向が見られ、裸体よりもよそいきの方が自己評価が高かった。また、どの部位の平均値も50位以下であった（表2）。裸体よりも、装った時の方が他者との比較において自身をより魅力的であると捉えていること、自分の身体を他者より高く評価している者が多くないことは、前報と同様である。しかし、全体的な順位は前報よりも高くなっており、わずかであっても年齢が高い者の方が自己評価が高まる可能性が伺われる。

裸体とよそいきを含めた計14の身体部位の自己評価の値についてPearsonの相関分析を行ったところ、多くの組み合わせで正の相関が有意であった。有意ではなかったのは、裸体の毛髪とよそいきの胸・ウエストであった。また、14の身体部位の自己評価の値について因子分析を行った。固有値から判断し4因子を採用した（固有値は、15.46、3.14、1.59、1.38）。最小二乗法、プロマックス回転で因子分析を行ったところ、14の身体部位すべての因

表2 自身の各身体部位に対する自己評価：同年代女性100人中の自己評定順位平均値

( ) は標準偏差

	裸体	よそいき	t値
毛髪	57.5 (24.6)	51.3 (23.1)	3.77**
顔	67.3 (22.5)	56.9 (21.5)	8.87**
肌	59.0 (25.9)	53.9 (23.6)	4.94**
手	58.4 (23.4)	54.8 (22.4)	3.46**
腕	62.8 (22.4)	59.6 (22.2)	3.45**
肩幅	60.4 (22.2)	58.8 (21.5)	1.91 <sup>†</sup>
胸	65.7 (23.0)	63.7 (22.4)	2.54*
ウエスト	63.3 (23.5)	61.3 (22.3)	1.96 <sup>†</sup>
足	66.8 (22.6)	65.3 (21.4)	1.47 <i>n. s.</i>
脚	69.4 (22.4)	67.6 (20.8)	2.09*
尻	70.0 (20.1)	66.8 (19.0)	3.89**
全身	69.6 (20.1)	64.4 (19.4)	5.93**
上半身	68.1 (20.4)	62.3 (19.8)	6.43**
下半身	71.5 (20.9)	67.7 (19.7)	4.38**

<sup>†</sup> $p < .10$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

子負荷量は0.35以上を示し、複数の因子にまたがって0.35以上の値のものはなかった。クロンバックの $\alpha$ 係数は第1因子0.976、第2因子0.863、第3因子0.931、第4因子0.950であった。因子間で同じ部位が裸体とよそいきで分離されることはなく、第1因子は（裸体とよそいき両方の）全身・上半身・下半身のプロポーション、足、脚、尻、ウエスト、第2因子は（同じく）顔・髪・肌、第3因子は（同じく）肩幅・手・腕、第4因子は（同じく）胸に高い負荷量が示された（表3）。以上の因子分析の結果は前報とほぼ同様であった。すなわち、第1因子は、下半身およびスタイルに直結し、女性が痩身志向との関係でとくに意識する部位、第2因子は、その表面に意識が向けられ、化粧・手入れが施される部位、第3因子は「上肢」、第4因子は胸のみである。

上記のように、裸体とよそいきの比較において、前報とほぼ同様の特徴が認められた。

## 各身体部位に対する自己評価

### (2) 主観的健康度との関連

前報と同じく、日本版GHQ28の合計得点5点

以下の回答者を健康度高群、14点以上を健康度低群とし、その間の6～13点を健康度中群とした。各群の人数は、高群44人（29.5%）、中群63人（42.3%）、低群42人（28.2%）であった。身長・体重・BMIそれぞれについて健康度の効果が見られるか分散分析を行ったところ、いずれにおいても健康度の効果は見られなかった（表4）。前報では、身長で有意、体重で有意傾向が認められ、低群は相対的に低身長でやや低体重であったが、ここではそのような特徴は見られなかった。

各身体部位の自己評価の値について健康度の効果が見られるか分散分析を行ったところ、裸体、よそいきいずれにおいても、健康度の効果が見られた部位はなかった（表5、6）。前報では、裸体、よそいきいずれにおいても、前述の因子分析における第1因子に含まれ、痩身志向やスタイルにとくに関わる部位で、健康度高群の自己評価が高くなる特徴が見られた。しかし、ここでは、上記の身長・体重・BMIと同じく、健康度との関連が見られた部位はなかった。

表3 各身体部位に対する自己評価の因子分析結果

身体部位	I	II	III	IV
【よそいき】脚	1.016	-.128	.034	-.143
【よそいき】下半身	.995	-.074	-.087	-.019
【裸体】下半身	.965	.020	-.098	-.006
【裸体】脚	.936	.006	.060	-.207
【裸体】全身	.854	.182	-.158	.120
【よそいき】尻	.848	-.121	.072	.035
【よそいき】全身	.843	.111	-.063	.063
【よそいき】足	.840	-.081	.206	-.155
【裸体】足	.833	.039	.163	-.210
【裸体】尻	.810	-.035	.078	.028
【よそいき】ウエスト	.791	-.104	.098	.033
【裸体】ウエスト	.789	-.058	.102	.041
【裸体】上半身	.714	.177	-.101	.247
【よそいき】上半身	.638	.145	.053	.170
【裸体】肌	-.128	.871	-.002	-.002
【よそいき】肌	-.182	.799	.112	.057
【裸体】顔	.240	.704	-.138	.060
【裸体】毛髪	-.066	.692	.161	-.263
【よそいき】毛髪	-.065	.608	.231	-.142
【よそいき】顔	.293	.560	-.051	.145
【よそいき】手	-.099	.235	.745	.046
【裸体】手	-.046	.254	.728	.008
【裸体】肩幅	.234	-.045	.656	.006
【よそいき】腕	.276	.020	.647	.072
【よそいき】肩幅	.312	-.137	.619	.112
【裸体】腕	.273	.072	.605	.049
【よそいき】胸	-.089	-.148	.110	.986
【裸体】胸	-.099	-.029	.079	.938
	$\alpha = .976$	$\alpha = .863$	$\alpha = .931$	$\alpha = .950$
因子相関行列	I	II	III	IV
I		.474	.637	.453
II			.482	.569
III				.364

表4 各健康度における身長、体重、BMIの平均値

( )は標準偏差

	健康度			F
	高	中	低	
身長 (cm)	157.0 (4.8)	157.7 (5.5)	157.1 (4.9)	.25 <i>n. s.</i>
体重 (kg)	49.4 (5.7)	51.3 (5.8)	49.2 (5.9)	2.17 <i>n. s.</i>
BMI	20.0 (1.9)	20.6 (2.3)	19.9 (2.1)	1.81 <i>n. s.</i>

表5 各健康度における自身の各身体部位に対する自己評価：同年代女性100人中の自己評価順位平均値

( ) は標準偏差 【裸体】

	健康度			F
	高	中	低	
毛髪	57.1 (23.8)	57.3 (23.5)	58.0 (27.4)	.02 <i>n. s.</i>
顔	63.8 (22.9)	67.0 (22.0)	71.4 (22.6)	1.28 <i>n. s.</i>
肌	60.5 (26.3)	57.0 (25.3)	60.4 (26.6)	.33 <i>n. s.</i>
手	57.6 (25.1)	59.7 (21.6)	57.3 (24.5)	.16 <i>n. s.</i>
腕	61.6 (21.8)	61.4 (22.4)	65.9 (23.2)	.61 <i>n. s.</i>
肩幅	57.5 (21.4)	58.7 (21.8)	65.8 (23.0)	1.91 <i>n. s.</i>
胸	62.8 (23.0)	68.5 (21.6)	64.7 (24.8)	.86 <i>n. s.</i>
ウエスト	60.8 (23.1)	62.9 (24.3)	66.5 (23.0)	.66 <i>n. s.</i>
足	68.0 (19.8)	64.4 (24.2)	69.2 (22.9)	.67 <i>n. s.</i>
脚	70.4 (19.9)	66.9 (24.9)	71.8 (21.2)	.71 <i>n. s.</i>
尻	69.0 (18.8)	69.4 (21.5)	71.9 (19.5)	.28 <i>n. s.</i>
全身	68.3 (20.0)	68.7 (21.0)	72.2 (19.0)	.53 <i>n. s.</i>
上半身	66.7 (21.5)	67.5 (20.5)	70.3 (19.4)	.38 <i>n. s.</i>
下半身	69.5 (21.9)	70.1 (21.2)	75.5 (19.4)	1.13 <i>n. s.</i>

表6 各健康度における自身の身体各部位に対する自己評価：同年代女性100人中の自己評価順位平均値

( ) は標準偏差 【よそいき】

	健康度			F
	高	中	低	
毛髪	47.7 (24.0)	50.9 (21.9)	55.7 (23.8)	1.33 <i>n. s.</i>
顔	56.0 (20.2)	55.0 (21.9)	60.3 (22.3)	.83 <i>n. s.</i>
肌	52.1 (24.0)	53.5 (23.9)	56.0 (23.1)	.31 <i>n. s.</i>
手	54.7 (23.6)	54.5 (22.3)	55.5 (21.7)	.03 <i>n. s.</i>
腕	58.3 (23.2)	57.6 (22.2)	63.8 (20.9)	1.14 <i>n. s.</i>
肩幅	56.3 (19.6)	57.5 (22.1)	63.3 (22.2)	1.35 <i>n. s.</i>
胸	60.0 (22.4)	66.0 (21.5)	64.0 (23.6)	.95 <i>n. s.</i>
ウエスト	57.6 (20.5)	60.4 (24.3)	66.3 (20.8)	1.79 <i>n. s.</i>
足	64.9 (20.0)	63.5 (23.3)	68.5 (20.0)	.72 <i>n. s.</i>
脚	68.1 (19.5)	65.4 (22.9)	70.2 (18.8)	.70 <i>n. s.</i>
尻	65.1 (18.6)	66.0 (20.1)	69.7 (18.0)	.76 <i>n. s.</i>
全身	62.8 (19.6)	62.9 (21.3)	68.1 (15.9)	1.14 <i>n. s.</i>
上半身	59.7 (20.5)	61.7 (21.5)	65.6 (16.3)	1.02 <i>n. s.</i>
下半身	66.5 (21.2)	66.4 (20.8)	70.8 (16.4)	.73 <i>n. s.</i>

## 各身体部位に対する自己評価

## (3) ダイエット経験との関連

やせるためのダイエット経験の合計は73.5%であった（現在している：23.8%、過去にしたこと

がある：49.7%）。女子大学生を対象に減量経験の調査を行った他の研究では、60～70%が経験者であることが報告されており（森・山本・倉賀野，2012；前川，2005；荻布・蓮井・細田・山本，

表7 ダイエット経験による身長、体重、BMIの平均値

( ) は標準偏差

	ダイエット経験			F	多重比較 (HSD法)
	現在している	過去にした	経験なし		
身長 (cm)	156.7 (5.0)	157.1 (5.2)	158.2 (5.1)	0.90 <i>n. s.</i>	
体重 (kg)	50.60 (4.0)	50.64 (6.2)	48.74 (6.5)	1.51 <i>n. s.</i>	
BMI	20.6 (1.7)	20.5 (2.1)	19.4 (2.3)	4.14 *	現在>経験なし* 過去>経験なし*

\* $p < .05$ 

表8 ダイエット経験による自身の各身体部位に対する自己評価：同年代女性100人中の自己評定順位平均値

( ) は標準偏差 【裸体】

	ダイエット経験			F	多重比較 (HSD法)
	現在している	過去にした	経験なし		
毛髪	57.9 (28.4)	58.9 (22.9)	54.4 (24.5)	.44 <i>n. s.</i>	
顔	67.2 (23.6)	66.8 (21.1)	68.5 (24.4)	.08 <i>n. s.</i>	
肌	56.1 (29.4)	58.3 (24.9)	62.9 (24.5)	.71 <i>n. s.</i>	
手	58.5 (26.3)	59.3 (22.7)	56.6 (22.3)	.17 <i>n. s.</i>	
腕	65.5 (24.8)	63.8 (20.6)	58.5 (23.3)	1.09 <i>n. s.</i>	
肩幅	63.7 (20.9)	62.6 (22.5)	53.3 (21.7)	2.88 †	現在>経験なし* 過去にした>経験なし*
胸	64.0 (28.5)	66.0 (20.5)	66.8 (22.3)	.14 <i>n. s.</i>	
ウエスト	67.0 (24.0)	66.3 (21.4)	54.5 (25.1)	4.01 *	現在>経験なし* 過去にした>経験なし*
足	70.1 (22.6)	70.2 (20.0)	57.6 (25.0)	4.80 *	現在>経験なし* 過去にした>経験なし*
脚	73.4 (22.4)	71.6 (21.0)	61.5 (23.6)	3.58 *	現在>経験なし* 過去にした>経験なし*
尻	75.2 (18.5)	70.8 (20.0)	63.9 (20.5)	3.24 *	現在>経験なし*
全身	72.0 (21.3)	70.3 (19.9)	66.1 (19.2)	.93 <i>n. s.</i>	
上半身	70.2 (20.2)	67.7 (20.8)	66.8 (20.1)	.28 <i>n. s.</i>	
下半身	75.0 (20.6)	73.8 (19.9)	64.0 (21.6)	3.70 *	現在>経験なし* 過去にした>経験なし*

† $p < .10$ , \* $p < .05$ 

2006)、前報でも69.1%であった。調査対象の年齢を20歳と21歳に限定した本研究の割合がこれらに比べてやや高いことは、加齢に伴って減量のためのダイエットを試みる者が増加することを示している。

ダイエット経験別の身長・体重・BMIについて分散分析を行った結果、BMIが有意であり、ダイエット経験がない者より経験者の方がBMIの数値が大きかった(表7)。前報はBMIに加えて体

重も有意であった点が今回の結果と異なるが、BMIの値に影響する体重がダイエット経験と関連していることは前報と同様と言える。

各身体部位の自己評価の値についてダイエット経験の効果が見られるか分散分析を行った(表8、9)。裸体で有意であったのは、ウエスト、足、脚、尻、下半身のプロポーション、有意傾向であったのは、肩幅であった。いずれも経験なしの方が自己評価が高い。よそいきで有意であったのは、肩

表9 ダイエット経験による自身の各身体部位に対する自己評価：同年代女性100人中の自己評定順位平均値

( ) は標準偏差 【よそいき】

	ダイエット経験			F	多重比較 (HSD法)
	現在している	過去にした	経験なし		
毛髪	50.6 (26.4)	52.0 (21.9)	50.7 (22.8)	.06 n. s.	
顔	57.0 (21.7)	54.5 (20.9)	61.2 (22.4)	1.27 n. s.	
肌	50.9 (27.9)	51.7 (21.4)	60.6 (22.4)	2.28 n. s.	
手	53.2 (26.1)	56.1 (21.8)	53.9 (20.1)	.26 n. s.	
腕	61.5 (23.4)	60.3 (21.6)	56.6 (22.3)	.53 n. s.	
肩幅	62.9 (20.1)	61.0 (22.0)	51.2 (20.4)	3.72*	現在>経験なし* 過去にした>経験なし*
胸	60.9 (27.4)	64.0 (20.1)	65.7 (21.7)	.45 n. s.	
ウエスト	63.2 (21.6)	64.2 (20.8)	54.2 (24.6)	2.89†	
足	67.5 (21.8)	69.0 (18.9)	56.6 (23.3)	4.90**	過去にした>経験なし*
脚	71.3 (20.8)	70.5 (18.2)	58.8 (23.1)	5.17**	現在>経験なし* 過去にした>経験なし*
尻	71.0 (18.6)	69.0 (18.2)	59.0 (19.1)	5.04**	現在>経験なし* 過去にした>経験なし*
全身	66.9 (20.1)	64.9 (18.7)	61.0 (20.0)	.94 n. s.	
上半身	64.1 (20.1)	61.9 (19.5)	61.4 (20.6)	.20 n. s.	
下半身	72.0 (19.9)	69.4 (17.8)	60.7 (21.5)	3.77*	現在>経験なし*

† $p < .10$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ 

表10 ダイエット経験による1ヶ月あたりの被服と化粧品購入平均額 (円)

( ) は標準偏差

	ダイエット経験			F
	現在している	過去にした	経験なし	
衣服	12,136 (8,102)	11,722 (9,396)	10,913 (11,261)	.10 n. s.
化粧品	4,568 (3,410)	4,961 (4,716)	3,935 (5,064)	.39 n. s.
衣服、化粧品合計	16,705 (10,140)	16,683 (11,868)	14,848 (14,153)	.20 n. s.

幅、足、脚、尻、下半身のプロポーション、有意傾向であったのはウエストであった。裸体と同じく、いずれも経験なしの方が自己評価が高い。前報では、ダイエットの動機づけの中心がウエストへの低い自己評価であることが示唆されたが、ここではウエストだけでなく、下半身全体への低い自己評価にあることが推測される。わずかな加齢によって、各身体部位への意識がより明瞭に焦点化されていくのかもしれない。

ダイエット経験による被服や化粧品の購入額について分散分析を行ったところ、いずれについても有意差は認められなかった(表10)。前報では、

現在ダイエット中である者の金額が最大であり、ダイエット行動と装いへの積極性の関連が示されたが、そのような特徴は見られなかった。本調査の対象年齢になると、ダイエット行動への動機づけに関わらず、装いへの意識の程度は同レベルになると思われる。

健康度によるダイエット経験有無の割合について $\chi^2$ 検定を行ったところ差異は認められなかった。ダイエット経験別のGHQ合計得点について行った分散分析でも有意ではなかった。ダイエット経験と健康度の関連が見られなかったことは、前報と同様である。



## 結 論

本研究は、20歳と21歳女性の身体意識の特徴について、裸体とよそいきそれぞれにおける自身の身体部位に対する魅力・美しさの自己評価（同年代女性100人中の順位）、心身の主観的健康度、ダイエット経験、身長、体重、BMI、被服・化粧品購入額の関連について分析した。18歳と19歳を対象とした前報との相違点は以下の通りであった。

- (1) いくつかの部位で、身長が高いほど自己評価が高く、体重とBMIが大きいほど自己評価が低くなる特徴は前報と同様であるが、前報で見られた、身長が高い方が主観的健康度が高いという関連は認められなかった。
- (2) ほとんどの部位で、裸体よりも被服や化粧品によって装った時の方が、他者との比較において自身をより魅力的であると捉えていることは前報と同様であるが、全体的な順位は前報よりも高い傾向がある。
- (3) 胸が他の部位と異なる独特の位置づけがなされていることは前報と同様である。
- (4) 主観的健康度との関連において、前報では、裸体、よそいきいずれにおいても、瘦身志向やスタイルにとくに関わる部位で主観的健康度高群で自己評価が高かったが、そのような関連は見られなかった。
- (5) 前報では、ウエストへの評価がダイエット経験に関連していたが、20歳と21歳ではウエストだけでなく、下半身全体への低い自己評価が関連する。また、前報では現在ダイエット中の者が最も被服・化粧品購入額が大きく、装いへの志向が強いことが示されたが、ここではそのような特徴は見られなかった。前報と同じく、ダイエット経験と健康度には関連がない。

18歳と19歳の女性の身体意識と比較して、20歳と21歳の女性の方が自己評価が高く、主観的

健康度との関連が弱いという特徴が認められた。これらは、わずかな加齢であっても、年長者の方が自身の身体をより肯定的に受け入れられるようになることを示していると思われる。一方、(5)のダイエット経験の特徴に現れているように、わずかな加齢とともに、下半身への身体意識がより敏感になる可能性がある。

今後はさらに詳細に年齢を区分した比較を行っていきたい。

### 謝辞

本研究の調査には、文化情報学部メディア情報学科卒業生の大河内柚希さん、宮崎沙来さんに協力をいただきました。御礼を申し上げます。

### 引用文献

- Goldberg, D. P. 著, 中川泰彬・大坊郁夫訳 (1978) 日本語版GHQ28日本文化科学社
- 羽成隆司・宮崎沙来 (2019) 18歳、19歳女性における自身の身体に対する評価、主観的健康度、ダイエット経験の関連 椋山女学園大学文化情報学部紀要 19, 47-56.
- 厚生労働省 (2017) 平成28年国民健康・栄養調査報告 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou/h28-houkoku.html> (検索日: 2020年8月17日)
- 厚生労働省 (2018) 平成29年国民健康・栄養調査報告 [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/eiyou/h29-houkoku.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyou/h29-houkoku.html) (検索日: 2020年8月17日)
- 厚生労働省 (2019) 平成30年国民健康・栄養調査報告 [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/eiyou/h30-houkoku\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyou/h30-houkoku_00001.html) (検索日: 2020年8月17日)
- 前川浩子 (2005) 青年期女子の体重・体型へのこだわりに影響を及ぼす要因——親の養育行動と社会的要因からの検討 パーソナリティ研究, 13, 129-142.
- 森由紀・山本存・倉賀野妙子 (2012) 女子大生のおしゃれ意識がもたらす瘦身願望と健康状況——食行動・運動習慣との関連において——日本家政学会誌, 63, 309-318.
- 荻布智恵・蓮井理沙・細田明美・山本由喜子 (2006) 若年女性のやせ願望の現状と体型に対する自覚及びダイエット経験 生活科学研究誌, 5, 25-33.

はなり・たかし / 文化情報学部教授  
E-mail: hanari@sugiyama-u.ac.jp